

報告事項（1） EVバス運行終了について

1. 概要

令和2年3月、中心市街地と沼津港のにぎわいの波及を目的として、沼津駅—沼津港間でグリーンスローモビリティのEVバスの運行を開始しました。運行当初は話題性や観光的效果が期待され、一定の利用も見られましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による人流減少や、乗務員不足の深刻化により安定的な運行が困難となった上、車両の故障が相次ぎ修理費用も高額となったため、沼津市・車両メーカーの意見も伺いながら、復旧にかかる期間と費用を鑑み、当社の経営判断で令和6年4月以降、やむを得ず運休しておりました。

その後、国への確認により令和7年2月以降に財産処分が可能となったため、沼津市と協議した結果、令和7年3月31日を以て営業運行を終了いたしましたのでご報告します。

2. 車両購入に係る導入費用の内訳

| 費用負担者 | 補助金名等 | 金額 |
|--------|--------------------|-------------|
| 伊豆箱根バス | | 11,869,597円 |
| 国庫補助金 | 二酸化炭素排出抑制対策事業等補助金 | 12,951,000円 |
| 市補助金 | 沼津市バス交通活性化対策事業費補助金 | 9,000,000円 |
| 合計 | | 33,820,597円 |

3. 運行ルートと運行実績

・運行内容

運行事業者 伊豆箱根バス(株)
 運行ルート 沼津駅—沼津港
 運行頻度 6往復/日
 (令和5年11月より土日に限り3往復に減便)
 乗車定員 20名(乗務員除く)
 乗車運賃 170円~200円
 (沼津駅—沼津港間は200円)



・年度別乗車実績(人)

| 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 合計 |
|------|--------|-------|--------|-------|------|--------|
| 953 | 13,738 | 5,396 | 15,274 | 6,564 | 0 | 41,925 |

※2021年度は新型コロナウイルス感染症対策のため一部の便を運休

※2023年度、2024年度は設備の不具合により運休

4. 故障・修理に必要なコスト(定期メンテナンス費用除く)

| | | |
|------|------------------|-------|
| 修理済分 | R 5. 4 (充電器故障) | 55万円 |
| | R 5. 9 (バッテリー交換) | 150万円 |
| | 合計 | 205万円 |

| | | |
|------|------------------|-------|
| 未修理分 | R 6. 4 (バッテリー交換) | 200万円 |
|------|------------------|-------|

| | |
|------------------|--------|
| (参考) 本路線における収入概算 | 約838万円 |
|------------------|--------|

5. 運行上における問題点・課題整理

| | |
|--------|---|
| (1)費用面 | <ul style="list-style-type: none">事業者による営業路線として、当時は先進的な取組として実施したものであったが、想定よりも部品の故障が多い上、特注バスによる定期メンテナンスのコストや修理コストが重荷となっておりました。 |
| (2)収入面 | <ul style="list-style-type: none">コロナ禍後の観光客の回復により、定員 20 名では一度に利用者に乗せきれないことも多く、コロナ禍による乗務員不足の中で、乗り残しが発生する状況もあり安定的な運行継続が困難となっておりました。乗り残しによりEVバス乗車希望者が次便の通常バスを案内される状況もあり、満足度が低下する状態となっておりました。 |
| (3)運用面 | <ul style="list-style-type: none">通常の路線バスと異なり、EVバスが沼津駅 - 沼津港の路線のみを運行する専用車両であったため、運行時には乗務員がバスを乗り換える必要があり、バスの駐車場からの移動時間などを加味した特別な仕業を組む必要がありました。冷暖房設備や窓がない車両であるため、当日の天候・気候状況により当該車両による運行の可否を判断する必要があり、運用に苦慮しておりました。 |
| (4)安全面 | <ul style="list-style-type: none">運行後のEVバスは伊豆箱根バスの車庫に回送することができず、当日收受した運賃については、運賃箱を取り外し、乗務員が運搬する必要があり、防犯上の課題がありました。冷暖房設備がない車両であるため、夏季の高温時・冬季の低温時は運転手や旅客の健康を考慮し、予め運休とする日もありましたが、運転手の体調管理も難しく、常に健康起因による事故が発生する懸念がありました。 |

6. 運行終了後の対応について

(1)車両について

当社で活用することも模索しましたが、自力走行が困難な状態であったため、イーラ de 地下駐車場からの搬出費用や引き取りに要する経費を差し引いた金額で、製造元へ売却いたしました。

(2)EVバス（代行含む）路線について

当該系統の運行については、他の沼津港線を運行する系統との運行時刻及び運行本数の調整を行いながら、地域利用者の需要や利用状況を踏まえた運行ダイヤを検討し、引き続き対応してまいります。